

修 士 論 文 要 旨

| | | |
|--|-----------------------------|--------------------------|
| 看護学専攻 | 生涯看護学 分野 母性看護学 領域 | 学籍番号 207603 氏 名 中西 愛梨 |
| 論文題目 | 母子分離が生じた母子への母乳育児支援を行う助産師の体験 | |
| キーワード | 母乳育児支援、助産師、母子分離、NICU、体験 | |
| <p>【背景】 ハイリスク妊産婦・新生児が増加し、出生後児が新生児集中治療室（Neonatal Intensive Care Unit：以下、NICU とする）へ入院し母子分離となる母子が増加している。母乳育児継続のためには、母子一体感を実感できる継続的な支援が重要とされており、助産師が役割を発揮すべきである。しかし、助産師は母子分離が生じた母子に適切な母乳育児支援を提供することが困難な状況であることが推測され、母子分離が生じた母子を一体として観る母乳育児支援を可能にする方略を考える必要があると考えた。母子分離が生じた母子への母乳育児支援を行う助産師の体験や主観的な認識に焦点を当てた研究は見当たらず明らかになっていない。</p> <p>【目的】 母子分離が生じた母子への母乳育児支援場面において、産科病棟あるいは NICU に配置されている助産師がそれぞれどのような体験をしているか明らかにする。</p> <p>【研究方法】 研究協力施設は地域周産期母子医療センター1 施設で、研究協力者は産科病棟の助産師 5 名と NICU の助産師 3 名の合計 8 名とした。半構成的面接法による聞き取り調査でデータを収集した。インタビュー内容から逐語録を作成し、母子分離が生じた母子への母乳育児支援を行う助産師の体験に注目し、コード化した。コード化したデータについて共通性と相違性を比較しながらカテゴリー化した。データ分析においては、分析の妥当性・信頼性を高めるため、母性看護学を専門とする教員、質的研究を専門とする教員のスーパーバイズを受け、確認や検討を行った。なお、三重県立看護大学研究倫理審査会を受審し承認を得て実施した。</p> <p>【結果】 産科助産師は『母乳育児支援の継続性を喪失する』、NICU 助産師は『NICU で母乳育児支援が公的な支援になり得ない』という母乳育児支援の継続性の喪失を体験していた。産科助産師は『助産師の実質的ケアが奪われる』、NICU 助産師は『助産師の母乳育児支援能力が求められない』状況でありながら、『助産師であるからこそできるケアがある』という助産師の実質的ケアの喪失を体験していた。また、産科助産師は『母子分離は母親から今あるべきケアを奪う』、NICU 助産師は母乳育児に関する『母親の意思が置き去りになってしまう』という母子分離が母親にもたらす喪失を体験していた。さらに、NICU、産科両者とも『産科と NICU の確執は未だなくならない』、『本来あるべき母乳育児支援が NICU との壁に阻まれる』と産科と NICU の連携を阻む壁があるという体験をしていた。</p> <p>【考察】 母子分離が生じた母子への継続支援を行う体制が不十分な中、助産師は実質的ケアを喪失しながらも、母子分離による母親にもたらされる喪失と向き合い母乳育児支援を行っていた。産科と NICU の連携を阻む壁が困難の根底にあることが示唆された。</p> <p>【結論】 母子分離が生じた母子へ継続的な母乳育児支援を提供できる体制を整え、助産師が所属部署に関係なく公的に実質的なケアを行えるよう助産師の役割や母乳育児支援の位置づけを検討していく必要がある。</p> | | |